

平成29・30年度調査研究 研究紀要

# つながる

～人権・部落問題学習 小・中・高の「系統的な学び」ブック～



平成31年3月  
久留米市教育センター





## はじめに

現在、教育の現場では世代交代がすすんできています。先輩たちが実践し大事にされてきた人権・部落問題学習の成果を若い教職員に受け継いでいかなければならない状況があります。人権・部落問題学習にどのように取り組んでいけばよいのか悩んでいる教職員も多いのも事実です。しかも、人権・部落問題学習は自分が担当する学年だけの取組で完結するものではありません。小学校から中学校、そして高等学校の取組へと受け継がれるものなのです。

学校現場における人権・部落問題学習の中で、小学校では「部落差別」という言葉を使った学習が展開されています。また、中学校では、教科書にはひらがなで記載されている「えた」身分、「ひにん」身分を漢字で表記し、その言葉の意味や差別することのおかしさを考えていく学習が展開されています。これらは、より正確な表現を用いることで部落差別に対する確かな人権感覚や豊かな感性を培うための取組で、新たな展開がすすめられているといえます。

そのような中で、「どんな教材を使ったらいいのか分からない」「授業のすすめ方に不安がある」などと、多くの悩みが聞こえてきます。

そこで、久留米市教育センター調査研究事業における人権・同和教育研究班では、小・中・高のつながりが見え、それぞれの学年での目標を明確にした「つながる」（系統的な学びブック）の作成に取り組みました。

この「つながる」の大きな目的は、『一人でも多くの先生方に読んでもらい、目の前の子どもたちと豊かな人権・部落問題学習を繰り広げてもらいたい』ということです。そのために誰にでも分かりやすいように、すぐに実践できるようにと考えて作成しました。小学校・中学校・高等学校を通した人権・部落問題学習のカリキュラム、具体的な教材やねらい、展開の仕方など掲載しています。

この「つながる」を通して、授業実践に関するさまざまな具体的な手法を掲載していますが、掲載できなかったことがあります。それは『授業者の思いや願い』です。人権・部落問題学習において、一番大切なことは、授業者の「差別を無くしたい」という強い思いや願いだということです。それは、差別の現実学ぶことで、より強く、より確かなものになっていくと思います。決して手法にとどまることなく、被差別側に寄り添うことや、差別の現実を見つめることを忘れずにしていきたいものです。

目の前の子どもの姿に照らし合わせて授業を創造することを忘れてはなりません。子どもたちの背景をしっかりと見つけ、共につながり、差別をなくしていく仲間になることができる取組を創造していきましょう。

この「つながる」が豊かな人権・部落問題学習の一助になれば幸いです。



## もくじ

- 実践例の見方 ..... 1
- 小・中・高をつなぐ出口の姿 ..... 2

### 小学校

- 部落認識を深めるカリキュラム ..... 4
- 実践事例 ..... 5

### 中学校

- 部落認識を深めるカリキュラム ..... 10
- 実践事例 ..... 11

### 高等学校

- 部落認識を深めるカリキュラム ..... 14
- 実践事例 ..... 15

### 小・中・高の「系統的な学び」

- 小・中・高をつなぐ学習のねらい ..... 17

# 実践例の見方

## 1 教材・題材

教材名 (出典)	『田中松月と全国水平社』(あおぞら2)
ねらい	○水平社創立大会に参加し、部落差別をなくす生き方をした松月さんの思いに共感させ、部落差別をなくしていこうとする心情を深めさせる。

## 2 留意点

○本時までに社会で全国水平社創立大会の学習を行っておく。また、その際には部落差別という言葉について学習しておく。(6年生の2学期に行うとよい)  
 ○松月さんの思いに共感できるように、事前に『お茶くみ当番』の授業に取り組んでおく。その際には、学校における差別の厳しさだけでなく、夜泣きうどん屋や新聞配達で働く松月さんの思いを中心に扱う。

### 【留意点】

授業を行う上で注意したい点や授業で押さえたいポイント、本時に至るまでに子どもたちと共有したい部分などを書いています。

本時だけではなく、積み重ねや日常の取組も大切にしましょう。

## 3 展開

学習活動	主な支援
1 資料を読み、課題をつかむ。 ○これまでの学習を振り返り、めあてをつかむ。 <b>水平社創立大会に参加する松月さんの思いについて考え、これまでの自分を振り返ろう。</b>	○本時のめあてをつかむために、社会科の学習を想起させ、資料「田中松月の生い立ち」を紹介する。
2 松月さんの思いについて話し合う。 ○水平社創立大会に参加するかどうか迷う松月さんの思いについて話し合う。 ○「田中松月の決意」を読んで、水平社創立大会に参加した時の松月さんの思いについて話し合う。	○松月さんの思いを考えることができるように、「なぜ、迷ったと思うか」と発問する。 ○共感的理解を深めるために、学び合う場を設定する。 ○被差別層への共感的理解を深めることができるように、既習学習を板書上に提示したり、映像「田中松月の話」を視聴させたりする。
3 松月さんのその後の行動について話し合う。 ○松月さんの行動を知り、その生き方について話し合う。 松月さんは、なぜたかう決意が爆発したのでしょうか。	○思いに共感し、行動を考えることができるように、「たかう決意が爆発した瞬間でした。」という言葉に着目させる。 ○松月さんが九州水平社に関わっていったことについて、映像「山の上で」(複製資料)を視聴させ、場を設定する。
4 これまでの自分自身を振り返る。	○差別をなくす主体者であるという思いを深めるために、授業者の説話をを行う。

### 【めあてとまとめ】

指導案の二重囲みは「めあて」と「まとめ」です。授業を行う上で子どもたちと何をねらっていくのかということと何を学んだのかということをつかりやすく表現しようとしています。

この通りにしなければいけないということではなく、実態に応じて、言葉の表記は変えていきましょう。

また、自分の思いを交流する目的の授業では、まとめの表記がない実践もあります。

### 【主発問】

指導案の枠囲みは主発問です。子どもたちとじっくり考える授業をめざしましょう。主発問で子どもたちが考えた後、切り返しの発問を行うと学びをより深めることにつながります。

**まとめ**

部落差別とたかう決意をし、差別をなくしていった。

**めあて**

松月さんの思いについて考え、これまでの自分を見つめよう。

人権学習

「田中松月と全国水平社」

○水平社創立大会に参加した時の松月さんの思い

知らないところ  
差別されるかも  
仲間がいる  
差別がなくなる

こわい

価値が高まるように板書する

○参加するかどうか迷う松月さんの思い

### 【板書例】

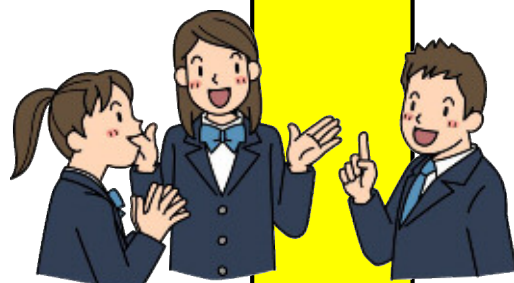
学びを視覚的にとらえることで、子どもたちの学びがさらに高まります。授業の流れや押さえたいことが分かりやすく見えるような構造的な板書となるように工夫していきましょう。板書例はあくまでも参考例です。共によりよいものを創り上げましょう。



# 小・中・高をつなぐ出口の姿

人権を大切にしまちや社会をつくる主体者として、部落差別をはじめあらゆる差別を解消するのは自分たちだと気づき、差別とたたかう生き方を考え、実践的行動力をもって社会変革を試みようとすることができる。

高等学校



中学校



人権のまちづくりの主体者として、自ら行動して、差別をなくしていく力を身につける。

小学校



部落差別は今もある社会問題であることを理解し、部落差別をはじめあらゆる差別を許さず、なくしていこうとすることができる。

# 生き方

(3学年)人権を大切にすまちや社会の主体者として行動することができる。

(2学年)部落差別を解消しようとするすることができる。

(1学年)当事者との出会いを通し、人権問題を自分の問題だととらえることができる。

# 受容

(3学年)自らの進路を主体的に切り拓いていこうとする。

(2学年)先人の努力と人権を大切にしようとする。

(1学年)自分たちで差別を許さない仲間をつくっていこうとする。

# 気づき

(高学年)部落差別をなくしていこうとすることができる。

(中学年)身の回りのおかしさをなくそうとすることができる

(低学年)自分や友だちを大切にしようとする。

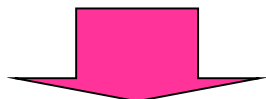
## 【部落認識を深めるカリキュラム（小学校）】

### <低学年のねらい>

- ・自分や友だちのよさに気づき（気づき）
- ・誰もがかけがえのない存在であるという思いをもち（考え）
- ・自分や友だちを大切にしようとする（行動）

### <低学年教材>

1年：（かお）（みんながおしえてくれました）（われたかびん）  
2年：（かぼちゃとメロン）（あしなが）（さるとかに）



### <中学年のねらい>

- ・自分の身の周りにおかしさ（差別や偏見）に気づき（気づき）
- ・誰もが大切にされるためにはどうしたらよいか考え（考え）
- ・身の回りのおかしさをなくそうとすることができる（行動）

### <中学年教材>

3年：（いつもぼくだけ）（みんなとなかよくしたいのに）  
（くろいなみだ）  
4年：（つらいことあるねんな）（ぼあちゃんのリヤカー）  
（クレヨンはぬすんだのじゃねえ）



### <高学年のねらい>

- ・部落差別は今もある社会問題であることを理解し（気づき）
- ・部落差別はおかしい、許せないという思いをもち（考え）
- ・部落差別をなくしていこうとすることができる（行動）

### <高学年教材>

5年：（おれはかきをとっていないぞっ）（よかたい先生）  
（桶のなかの銅貨）  
6年：（お茶くみ当番）（田中松月と全国水平社）  
（一枚のはがき）（松本治一郎と日本国憲法）



### 《小学校の出口》

部落差別は今もある社会問題であることを理解し、  
部落差別をはじめ、あらゆる差別を許さず、  
なくしていこうとすることができる。

6年生の歴史学習

（龍安寺の石庭）

龍安寺の石庭は「差別されつつもすぐれた技能をもった人々」によってつくられたことを理解する。

（身分制度）

身分制度について理解し、武士が人々を支配するのに都合がよいものであったことを理解する。

（解体新書）

解体新書には、ムラの人の知識と技術が大きく関わっていたことを理解する。

（洗染一揆）

ムラの人々が差別に対して立ち上がり、差別政策を撤回させていったことを理解する。

（解放令）

ムラの人々の身分は平民になったが、差別をなくす政策もなかったことにより、差別は残ったことを理解する。

（全国水平社創立大会）

被差別部落の人々は自ら立ち上がり、差別をなくす運動をするために全国水平社をつくったことを理解する。（部落差別という言葉に置き換える。）

（現代：憲法）

日本国憲法の基本的人権について理解する



## 1 教材・題材

教材名 (出典)	さるとかに (なかま 奈良県人権教育研究会 編)
ねらい	○自分たちのまわりにおかしな力関係がないかを考え、おかしいことに対して友だちと団結して行動することの大切さに気づくことができる。

## 2 留意点

- かにたちの声を上げる行動や団結してはさみを振り上げる行為は、部落差別に対する「立ち上がり」とつながっていることを授業者が理解しておく必要がある。
- かにの状況を理解させるために、さるとかにの力関係をおさえる。そして、石投げによって泡を吹いたり潰されたりするかにの姿からさるの石投げがかにの命を奪うほどの行為であることをおさえる。
- かにがはさみを振り上げておこった姿から、おかしいことに対して、一人でも声を上げることが大切であり、さらに、なかまとともに行動していく必要性を感じさせる。
- かにたちがはさみを振り上げた行為は、自らの命を守るための精一杯の行動であり、理不尽なさるの行動に対する怒りの表れであることを授業者が理解しておく必要がある。

## 3 展開

学習活動	主な支援
<p>1 資料を読み、学習のめあてをつかむ。</p> <p>○「さるとかに」を読んで、かにの立場からさるの行動のおかしさを確認しめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>はさみをふりあげておこったかにの気持ちを考えよう。</p> </div>	<p>○かにの立場から考えられるように、両者の力関係やさるのおかしな行動に着目させる。</p>
<p>2 「かに」の行動や思いについて考える。</p> <p>○「かに」は、さるの石投げに対してどんな思いをしているか話し合う。</p> <p>○声を上げて聞いてくれなかったときの「いっぴきのかに」と「団結したかにたち」の思いを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ「かに」たちは、はさみをふりあげておこったのだろうか？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>おかしいことには、みんなで声を上げる。</p> </div>	<p>○かにの思いを考えられるように、視覚的資料の提示方法を工夫しながら両者の行動、言葉、表情を確認させる。</p> <p>○かにがはさみを振り上げておこった思いを理解できるように、かにの立場からさるの行為がどれほどひどいものなのか考えさせる。</p>
<p>3 ふりかえりをする。</p> <p>○自分たちの生活の中にあるおかしいことを振り返り、どうしたらいいか考える。</p>	<p>○自分自身や自分のクラスをふりかえるために、さるのように弱い者を攻撃したり、かにのように団結して声を上げたりすることについて考えさせる。</p>

## 4 板書例

まとめ

おかしいことには、みんなで声を上げる。

「やめてくれ。」

ぜったいにやめてくれ  
石なげはゆるさない  
もう一丁と石をなげるな

「おさるさんは、おもしろいでしょう。でも、わたしたちは、しんでしまいます。」

「おさるさん、いしをなげないでください。」

「おさるさん、いしをなげないでください。」

「おさるさん、いしをなげないでください。」

さるとかに  
めあて  
はさみをふりあげておこったかにの気持ちを考えよう。

○つぶされたかにたちの思い

「なんだ。こんなことぐらいいしてもいいじゃないか。」

「あわてている  
このままどしぬ  
ふあんていっばい  
石なげをやめてほしい  
どうしたらいいんだろう」

○いっぴきのかにの思い

どうしてもやめてほしい  
一人でも声を上げないと  
わたしたちのきもちを考えると  
小さいけどわたしにもいのちがある  
このままではだめだ

もつとなかまをあつめよう！  
みんなで声を上げよう！

○力を合わせたかにたちの思い

「やめてくれ。」

# 1 教材・題材

教材名 (出典)	クレヨンはぬすんだのじゃねえ (にんげん 全国解放教育研究会 編)
ねらい	○サヨに対するまわりの差別的な言動に怒りをもつとともに、「クレヨンは、ぬすんだのじゃねえ。」に込められたサヨの思いと「ふみ切りむこう」と呼ばれる家族やなかまたちとのつながり、あたたかさについて考えることができる。

# 2 留意点

○生活の貧しさや家計を支えるのを理由に学校を休まなければならないこと、学校でのサヨたちに対する偏見や排除の背景には、「部落差別」があることを授業者が理解しておく必要がある。差別の悲惨さが先行しないように、サヨたち家族やなかまたちとのつながり、あたたかさを大切にしていく。

○サヨはまわりの子からクレヨンを折られ、画用紙にかきながらでも最後まで母ちゃんの姿をかきあげたのは、差別に負けない気持ちからだけではなく、そうせざるを得なかった状況であり、サヨの立場からまわりのおかしさをしっかり考えさせる。サヨが頑張らないといけなのは、おかしいとであると理解しておく。

○サヨがふみ切りを渡り切ったときに顔が上がったのは、「ふみ切りむこう」の家族やなかまたちとのつながり、あたたかさがあったからだとして理解できるようにする。そのために、次の三点をおさえる。①生活を支えるために懸命に働く母親の姿やサヨを喜ばせるために買ったクレヨンに込められた思い②いつも頭に浮かぶよっちゃんやさぶちゃんたちとのつながり③学校でのサヨに対するクレヨンをぬすんだという決めつけや差別、排除に対するおかしさ


# 3 展開

学習活動	主な支援
<p>1 資料を読み、学習のめあてをつかむ。</p> <p>○家族やなかまたちとのつながり、あたたかさを振り返り、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>サヨにとっての「ふみ切りむこう」はどんな場所か考えよう。</p> </div>	<p>○本時のめあてをつかむために、ふみ切りを渡る前と後のサヨの姿を比べさせる。</p>
<p>2 サヨの気持ちの変化を考える。</p> <p>○ふみ切りをわたる前のサヨの思いを話し合う。</p> <p>○ぐっと顔をあげて「クレヨンは、ぬすんだのじゃねえ。」と言ったサヨの思いについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、サヨは「ふみ切りむこう」で顔が上がったのだろうか。</p> </div> <p>3 サヨにとっての「ふみ切りむこう」がどんな場所か考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ふみ切りむこう」は、あたたかい家族やなかまたちがいる、サヨにとって一番安心できる場所</p> </div>	<p>○うつむいているときサヨの思いに気づくために、学校での様子を振り返らせる。</p> <p>○顔を上げたサヨの思いを理解できるように、頭に浮かべたよっちゃんやさぶちゃんの存在に着目させる。</p> <p>○「ふみ切りむこう」の家族やなかまたちの姿が分かるように、視覚的資料を使って整理する。</p>
<p>4 ふりかえりをする。</p> <p>○自分たちのクラスが「ふみ切りむこう」のように安心できるクラスになっているか自分の姿を振り返る。</p>	<p>○自分の姿を振り返らせるために、自分たちの生活の様子を取り上げたり、授業者の話をしたりする。</p>

# 4 板書例

まとめ

「ふみ切りむこう」は、あたたかい家族やなかまたちがいる、サヨにとって一番安心できる場所



○顔を上げたサヨの思い

こんなことせたいおかしいよ  
私はせつないにわるくない  
わたしたちをそんな目で見るな  
お母さんの気持ちを考えろ  
よっちゃんやさぶちゃんに会いたい  
だれもこんな思いをしてほしくない

「クレヨンは、ぬすんだのじゃねえ」

ふみ切りむこう

○うつむいたままのサヨの思い

なんでこんなことをするの  
先生もたすけてくれなかった  
わたしは何も悪くないのに  
お母さんクレヨンごめんね  
もう一度とこんなこいやだ  
学校行きたくない

クレヨンはぬすんだのじゃねえ  
めあて

サヨにとっての「ふみ切りむこう」は  
どんな場所か考えよう。

# 1 教材・ねらい

教材名 (出典)	おれは かきをとっていないぞっ (「なかま」 編集 奈良県人権教育研究会)
ねらい	○差別をされ、差別をなくそうとしている平一の思いに共感することによって、差別のおかしさをとらえ、差別をなくしていくにはどうしたらいいか考えることができる。

## 2 留意点

<p>○高学年の部落問題学習につないでいくために「生まれたところや住んでいるところよっての差別」であることを明らかにして学習を行う。高学年のスタートとして5年生の一学期に行うとよい。</p> <p>○部落差別の構造について理解を深めるために、役場や学校の差別についても確認するようにする。</p> <p>○貧しいから差別されているわけではなく、背景に部落差別があることに留意する。</p> <p>○教材文の50年後については、部落差別をなくしていく展望をもたせる展開も考えられる。</p> <p>○『ムラ』は被差別部落を表している。教材文での表記はないものの、提示する場合は歴史学習のつながりを配慮する必要がある。</p>
---

## 3 展開

学習活動	主な支援
<p>1 資料を読み、課題をつかむ。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、めあてをつかむ。</p>	<p>○「生まれたところや住んでいるところよっての差別」であることを明確にするために、感想を紹介する。</p>
<p><b>だれもが大切にされるためにはどうしたらいいか考え、自分を見つめよう。</b></p>	
<p>2 平一の思いについて話し合う。</p> <p>○犯人にさせられた平一の思いについて話し合う。</p> <p>○「みんな力を合わせて、こんなさべつなくさないかんぞ。」と言われ、力づくうなずいた平一の思いについて話し合う。</p>	<p>○平一のおかれている状況を理解できるように、役場や学校のムラに対する差別について確認する。</p> <p>○平一の思いについて深めることができるようにするために、班で学び合う場を設定する。</p>
<p>3 差別をなくすには、周りはどうすればいいのか話し合う。</p> <p>○誰もが大切にされるためにどうしたらいいのか話し合う。</p>	<p>○被差別側から加差別側へ視点を変えるために、発問する。</p> <p>○差別をなくすには周りの人々(周りの村、学校、役場など)の力が必要であることを確認する。</p>
<p><b>力を合わせ、おかしいことはおかしいと言う</b></p>	
<p>4 これまでの自分自身を振り返る。</p>	<p>○差別をなくしていく主体者としての心情を深めさせるために、授業者自身が差別をなくす主体者であるという説話を行う。</p>

## 4 板書例

まとめ

力を合わせて、おかしいことをおかしいと言う

**周りの力が必要**

○力づくうなずいた平一の思い

みんな力を合わせて、こんなさべつなくさないかんぞ

なんで  
くやしい  
おかし  
差別へのいかり

価値が高まるように板書する

○はんににされた平一の思い

めあて

だれもが大切にされるためにどうしたらいいか考え、自分を見つめよう

「おれはかきをとっていないぞっ」

人権学習



# 1 教材・題材

教材名（出典）	「田中松月と全国水平社」（あおぞら2）
ねらい	○水平社創立大会に参加し、部落差別をなくす生き方をした松月さんの思いに共感させ、部落差別をなくしていこうとする心情を深めさせる。

# 2 留意点

<p>○本時までには社会で全国水平社創立大会の学習を行っておく。また、その際には部落差別という言葉について学習しておく。（6年生の2学期に行うとよい。）</p> <p>○松月さんの思いに共感できるように、事前に『お茶くみ当番』の授業に取り組んでおく。その際には、学校における差別の厳しさだけでなく、夜泣きうどん屋や新聞配達で働く松月さんの思いを中心に扱う。</p>
--

# 3 展開

学習活動	主な支援
<p>1 資料を読み、課題をつかむ。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、めあてをつかむ。</p>	<p>○本時のめあてをつかむために、社会科の学習を想起させ、資料「田中松月の生い立ち」を紹介する。</p>
<p><b>水平社創立大会に参加する松月さんの思いについて考え、これまでの自分を振り返ろう。</b></p>	
<p>2 松月さんの思いについて話し合う。</p> <p>○水平社創立大会に参加するかどうか迷う松月さんの思いについて話し合う。</p> <p>○「田中松月の決意」を読んで、水平社創立大会に参加した時の松月さんの思いについて話し合う。</p>	<p>○松月さんの思いを考えることができるように、「なぜ、迷ったと思うか。」と発問する。</p> <p>○共感的理解を深めるために、学び合う場を設定する。</p> <p>○被差別側への共感的理解を深めることができるように、既習学習を板書上に提示したり、映像「田中松月の話」を視聴させたりする。</p>
<p>3 松月さんのその後の行動について話し合う。</p> <p>○松月さんの行動を知り、その生き方について話し合う。</p>	<p>○思いに共感し、行動を考えることができるように、「たたかう決意が爆発した瞬間でした。」という言葉に着目させる。</p> <p>○松月さんが九州水平社に関わっていったことを知らせ、資料「九州水平社（新聞記事）」を見せる場を設定する。</p>
<p><b>部落差別とたたかう決意をし、差別をなくしていった</b></p>	
<p>4 これまでの自分自身を振り返る。</p>	<p>○差別をなくす主体者であるという思いを深めるために、授業者の説話を行う。</p>

松月さんは、なぜたたかう決意が爆発したのでしょうか。

**部落差別とたたかう決意をし、差別をなくしていった**

# 4 板書例

## 1 教材・ねらい

教材名（出典）	松本治一郎と日本国憲法（久留米市人権啓発センター パネル）
ねらい	○松本治一郎の生き方に寄り添い、共感的に理解することによって、部落差別のおかしさをとらえ、自分自身が部落差別をなくしあらゆる差別をなくしていく主体者であるという心情を深めることができる。

## 2 留意点

<p>○治一郎さんの思いが「部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくす」ことにつながっていることを理解させるために、これまでの学習を踏まえ、6年生の3学期に行うとよい。</p> <p>○治一郎さんの思いにより共感的理解をさせるために、『桶のなかの銅貨』（5年生の3学期）で治一郎さんに会わせておくようにする。</p> <p>※事前に教師が「水平の旗をかかげて（解放出版社）」を読んだり、フィールドワークを行ったりし、松本治一郎の生き方について、理解をふかめておくことよい。</p>
--

## 3 展開

学習活動	主な支援
<p>1 資料を読み、課題をつかむ。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>治一郎さんの思いについて考え、これまでの自分を見つめよう。</p> </div>	<p>○治一郎さんが憲法に大きく関わったことを知らせるために、日本国憲法14条を紹介する。</p>
<p>2 松本治一郎さんの思いについて話し合う。</p> <p>○日本国憲法にかけた治一郎さんの思いについて話し合う。</p> <p>○『不可侵・不可被侵』に込めた治一郎さんの思いについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ、『不可侵』が先なのでしょう。その思いについて考えてみましょう。</p> </div>	<p>○実態に応じて、憲法24条の「合意のみ」にこだわったことについて知らせてもよい。</p> <p>○治一郎さんが大切にしていた「不可侵・不可被侵」という言葉を紹介する。</p> <p>○差別をされていた治一郎の気持ちについて深めることができるようにするために、班で学び合う場を設定する。</p>
<p>3 差別をなくしていくにはどうしたらいいか話し合う。</p> <p>○周りはどうすればいいのか話し合う。</p>	<p>○被差別側への共感的理解を深めるために、これまでの学習と重ねよう助言する。</p> <p>○差別をなくしていくには加差別の問題であることをとらえさせる。（被差別の思いをピンク、加差別の思いを赤いハートで重ねることで差別がなくなるという思いを深めさせる。）</p>
<p>4 自分自身を振り返る。</p>	<p>○治一郎さんが大切にしていた『和』という言葉を紹介する。</p> <p>○差別をなくす主体者である思いを深めるために、授業者の説話を行う。</p>

## 4 板書例

不可侵・不可被侵

和

よかたい先生

仲間ができる

相手を大切に

自分大切に

差別をなくす

未来へつなぐ

ばあちゃんのリヤカー

山の粥

○日本国憲法に込めた治一郎の思い

第十四条【法の下の平等、異民族間の互敬、実質的平等】  
1. すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的關係において、差別されない。

「松本治一郎と日本国憲法」

治一郎さんの思いについて考え、これまでの自分を見つめよう。

次こそは…  
部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくしたい  
これからの子どもたちのため  
価値が高まるように板書する

人権学習



## 【部落認識を深めるカリキュラム（中学校）】

### < 1 学年のねらい >

- 識字学級や教科書無償運動の学習を通して、
- ・仲間と連帯することの大切さに気づき（気づき）
- ・生きていくことや学ぶことの意義を考え（考え）
- ・自分たちで差別を許さない仲間をつくっていかうとする（行動）

### < 1 学年教材 >

（ひらがなにっき）（北風の夜）（教科書無償運動）

### < 2 学年のねらい >

- 部落差別に関する歴史的な事実についての学習を通して
- ・人を分断支配するために差別が用いられたことに気づき（気づき）
- ・差別的な事象をなくそうとしてきた先人の思いを考え（考え）
- ・先人の努力と人権を大切にしようとする（行動）

### < 2 学年教材 >

（憲法学習）（全国水平社）（菜の花）（樫の木ひとりごと）  
（山の粥）

### < 3 学年のねらい >

- 現代の差別をなくしていく運動の学習を通して
- ・差別を解消しようとする生き方のすばらしさに気づき（気づき）
- ・自らが差別をなくし人権を大切に作る生き方を考え（考え）
- ・自らの進路を主体的に切り拓いていかうとする（行動）

### < 3 学年教材 >

（統一応募用紙）（部落差別の解消の推進に関する法律）  
（差別をなくしていく運動をしている当事者との出会い）

### 《 中学校の出口 》

人権のまちづくりの主体者として、自ら行動して  
差別をなくしていく力を身につける。

#### 社会科との関連

- ・河原者
- ・けがれ意識

#### 社会科との関連

- ・市民革命と人権の誕生
- ・身分制度
- ・渋染一揆
- ・「解放令」
- ・全国水平社平社

※教科書に賤称語が記載されている意味を教職員が理解し、差別をなくしていく主体者として、賤称語のもつ差別性についても生徒へ伝えていきましょう。また、社会科任せにすることなく、学校総体としての取組にしていきたいと思います。

#### 社会科との関連

- ・人権の確立
- ・憲法学習
- ・平等権
- ・同和对策審議会答申
- ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律
- ・部落差別の解消の推進に関する法律
- ・人権のまちづくり

## 1 教材・題材

教材名（出典）	「ひらがなにつき」～吉田一子さんの文字への思いを考えよう～ 吉田一子（文：若一の絵本政策実行委員会、絵：長野ヒデ子）
ねらい	○字を識らずに生きることのつらさや、字を取り戻すことの喜び、さらには部落差別に対する怒りなどの気持ちに共感したり、想像したりすることができるようにする。 ○識字に対する関心をもち、部落差別をはじめとするあらゆる人権問題に関して学んでいく見通しをもつことができるようにする。

## 2 留意点

- 小学校で学習した「一枚のはがき」を踏まえ、識字運動が部落差別の解消に向けた運動を確認する。
- 前時まで、「ひらがなにつき」の絵本を読んで、初見の感想や吉田一子さんの思いや生きざまについて交流活動を行い、字を識らないで生きてきた一子さんの思いに寄り添えるようにする。
- 差別によって文字を学ぶことができなかつたことのおかしさに気づき、文字を奪われたのは「部落差別」があったからだとして理解できるようにする。
- 部落差別は過去のものではなく、現在の問題であることを踏まえ、自分自身がどのような生き方をしていきたいかを考えさせる。

## 3 展開

学習活動	主な支援
<p>1 前時の振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○紙芝居の振り返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の感想・意見の紹介</li> </ul> </li> <li>○「どきどき」に込められた一子さんの思いをみんなで考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・この「どきどき」ってどんな「どきどき」？</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○識字運動が部落差別の解消のために取り組まれた運動であることを確認する。</li> <li>○仲間の感想や意見を聞き、仲間の思いを知る。</li> <li>○「ひらがなにつき」の帯にかかれた言葉を紹介する。 「わたし じい みたら どきどき しますねん」</li> </ul>
<p><b>吉田一子さんの文字への思いや生き方を考えよう。</b></p>	
<p>2 駅のらくがきの場面において、らくがきを見て、びっくりして腹がたって涙が出た一子さんの文字に対する思いを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分のことではないのに、腹をたてたのはなぜだろう？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○嬉しさ、楽しさ、悲しさ、苦しきなどさまざまな感情を想起させる。（理由も含めて）</li> <li>○共感的理解を深めるために、一子さんの生活背景を踏まえて想起できるようにする。</li> </ul>
<p>3 ラーメン屋の場面を読み直し、字を識らない理由を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>一子さんは、そもそもどうして字を識らないのかな？</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「なぜ勉強できず、子守りをしていたか」を考えさせ、一子さんのくらしに対する理解をさらに深めることができるようにする。</li> </ul>
<p>4 部落差別があったことを認識させながら、一子さんの生きざまから感じたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「部落差別」は今もある問題であることをとらえさせる。</li> <li>○「おかしさ」に出会ったときに指摘し、変えようと行動していこうとする力を育む。</li> <li>○同じ思いをもつ仲間とともに、協力して解決していくことの大切さも伝える。</li> </ul>
<p><b>一子さんの文字に対する思いを通して、「部落差別」のおかしさに気づき、なくしていけるように、これからも人権学習を大切にしよう。</b></p>	

# 1 教材・題材

教材名（出典）	「山の粥」岡山の語り伝え
ねらい	○江戸時代の身分制度は、支配者である武士が、自分の権力の維持のために、けがれ意識を利用しながら、住む地域や法度によって民衆を分断していった制度であることをとらえることができる。

# 2 留意点

- 山の村の人々、農民や町人の仕事や住む地域や役割をまとめたものを図式化することによって、語り伝えの内容をわかりやすくする。
- 農民は「口もきかなかった。」という表現を手がかりに、農民が、差別をしていることに気づかせ、その理由をみんなで考えさせる。また、それを仕組んでいるのが武士でそのために法令を出していることを押さえる。
- このような山の村の藤平じいさんたちが「えた」身分とされていたこと、そのほかに「ひにん」身分とされ、社会から疎外されていた身分がいたことを理解させる。
- 住むところも分け、役割も分け差別分断することで、一揆や反抗が起こらないようにするために、身分制をつくったことを理解させる。次時は、藤平じいさんがなぜ、「農民に手紙を送ったのか。」を考え、「日頃のお礼」の意味について考えさせる。そして山の村の人々の思いや生き様を考えさせる。

# 3 展開

学習活動	主な支援
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○山の村の人々、農民や町人の仕事や住む地域や役割をまとめたものを図式化することによって、語り伝えの内容を理解しやすくする。 ○農民は「口もきかなかった。」という表現に注目し江戸時代の身分制度を探っていく。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">江戸時代の身分制度とは、どのような制度であったのか探ってみよう。</div>	
2 農民が平介の村の人と「口もきかなかった。」理由について考え発表する。 ・差別していた。 ・けがれていると考えていた。	○班で交流させ発表させる。 ・農民や町人が山の村の人を差別していることを押さえておく。
3 農民や町人はどうして、山の村の人を差別するようになったのか考える。	○「お触れを出した。」「月のない深夜に来てください。」という表現を考えるヒントとして、武士が山の村の人を疎外(差別)するようにしむけていることに気づかせる。 ※「えた」身分や「ひにん」身分の説明を行う。
4 なぜ、このような身分制度をつくったのか考え、本時学習のまとめを行う。 ・一揆をおこさない。 ・ばらばらにする。	○住む場所も分け役割も分け、身分も分け、差別分断することで、支配される側が一緒になり、一揆や反抗が起こらないようにするために、身分制がつけられた。

# 4 板書例

**めあて**  
江戸時代の身分制度は、どのような制度であったか探ってみよう。

☆住む場所や役割分担をまとめてみよう

☆農民たちが口もきかないのはなぜ？

農民たちは、藤平じいさんたちを差別していたから  
殿様が、お触れを出して差別するようにしむけたから

山の村の人たち(藤平)たち  
「えた」身分とよび差別させる意図でよぶようになった。

☆身分制度とはどんな制度？

**分断政策**  
住むところを分けた  
役割も分けた  
身分も分けた

**まとめ**  
武士の都合がいいように、支配した人々をばらばらにして、一揆などを起こさせないように作った制度である

## 1 教材・題材

教材名 (出典)	「部落差別の解消の推進に関する法律」
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「部落差別解消推進法」に込められた被差別部落の人たちの思いや願いを手がかりに、教育や啓発の大切さを理解する。</li> <li>○人権のまちづくりの主体者として、部落差別の解消のために行動していくことができるようにする。</li> </ul>

## 2 留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの人権学習や歴史学習を通して、差別のおかしさや差別が人権を奪うということを理解しておく。身分制社会のおかしさや被差別部落の人たちの立ち上がりである水平社創立大会、教科書無償運動や奨学金運動など部落解放運動の大切さについて学習しておく。</li> <li>○部落問題は個人の問題ではなく、社会問題であることを、同和对策審議会答申等を通して理解し、2016年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」(以下「部落差別解消推進法」)が施行されたことを公民の授業を通して学んでおく。</li> <li>○「部落差別解消推進法」が出された背景や被差別部落の人たちの思いや願いを共感的にとらえさせる。</li> <li>○部落差別を解消するためには「教育」と「啓発」が大切であり、自分自身が人権のまちづくりの主体者として部落差別の解消のために何ができるかを考え、行動することができるようにする。</li> </ul>
---

## 3 展開

学習活動	主な支援
1 社会科で学んだ「平等権」「同和对策審議会答申」「部落差別解消推進法」について振り返り、本時のめあてを確認する。	○「平等権」について自由に発言させ、「部落差別解消推進法」の内容から、部落差別が現在もあることを確認する。
<b>部落差別をなくしていくために、今後自分ができることを考えよう。</b>	
2 部落差別をなくしていくために、これまでどんなことが行われてきたかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「解放令」 ・全国水平社創立大会</li> <li>・日本国憲法 ・同和对策審議会答申</li> <li>・<u>教科書に部落問題が記載される(1972)</u></li> <li>・部落差別解消推進法</li> </ul>	○これまで学んだことを自由に発言する。 ○それらの取り組みがなされ、少しずつ改善に向かっているものの、まだ部落差別解消には至っていないことを確認する。
3 教科書に部落問題が記載されていることに対して被差別部落の人の思いや願いを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・賤称語を使ってまた差別されるのではないか</li> <li>・差別のばらまきになるのではないか</li> <li>・学校や先生たちを信じてまかせてみよう</li> </ul>	○教科書に賤称語が記載されたことを確認し、全体で交流後に、資料「教科書に掲載された際の思い…」を配布する。教育に期待されていた点が大いことを確認し、当時の親たちの思いに共感する。
4 教師の思いを聞き、本時のまとめをする。	○教師自身が部落差別をなくしていくための取組(第5条「教育」「啓発」)について語る。
<b>部落差別をなくしていくためには、正しく知り、多くの人と語り合うことが必要である。そうすることで社会を変えていくことができる。</b>	

(資料) ある識字学級での新しい教科書に関する被差別部落の親たちの意見 (福岡市同研ニュース 1971. 8. 15)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまで学校では、全員が部落問題について学ぶことはなかった。しかし、教科書に部落問題についての記述が出るということは、すべての子どもたちが部落問題について知ることになり、逆に差別が出てくるような気がする。</li> <li>○先生たちと親たちが一緒に手をとって、いい加減な指導にならんようにしなくちゃいかんと思う。</li> <li>○詳しく部落の歴史を書いた教科書が出ることは水平社創立以来50年のたたかひの成果です。</li> </ul>
---

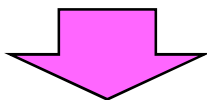
## 【部落認識を深めるカリキュラム（高等学校）】

### <1 学年のねらい>

- ・ 社会にあるさまざまな人権問題に気づき（気づき）
- ・ 自分の差別性について考え（考え）
- ・ 当事者との出会いを通し、人権問題を自分の問題だととらえることができる（行動）

### <1 学年教材>

（性の多様性）

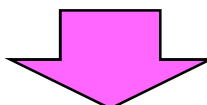


### <2 学年のねらい>

- ・ 部落差別が自分の問題だと気づき（気づき）
- ・ 部落差別を容認してきた社会のおかしさについて考え（考え）
- ・ 部落差別を解消しようとするすることができる（行動）

### <2 学年教材>

（「解放令」（水平社創立）

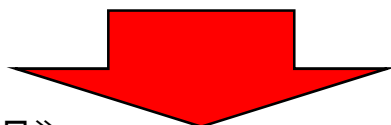


### <3 学年のねらい>

- ・ 社会の中で差別とたたかっている人の生き方の価値に気づき（気づき）
- ・ 自分の生き方を考え（考え）
- ・ 人権を大切にしまちや社会をつくる主体者として行動することができる（行動）

### <3 学年教材>

（胸はって生きていこう）（STEP～未来～）  
（差別をなくす運動をしている当事者との出会い）



### 《高等学校の出口》

人権を大切にしまちや社会をつくる主体者として、部落差別をはじめあらゆる差別を解消するのは自分たちだと気づき、差別とたたかう生き方を考え、実践的行動力をもって、社会変革を試みようとする  
ことができる。



## 1 教材・題材

教材等名 (出典)	胸はって生きていこう(かがやき高等学校用)、STEP～未来へ～(あおぞら2)
ねらい	○就職選考における部落差別撤廃の取組の中で、「全国高等学校統一応募用紙(統一応募用紙)」はつくられ、そのことが社会的に厳しい状況におかれた生徒をはじめ、多くの人の人権を守り、進路を保障することにつながっていることや、公正な選考を実現させるためには、一人ひとりの主体的な行動が重要であることを学ぶ。

## 2 留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>○「公正な採用選考」の基本的な考え方を学ばせる。</li> <li>○就職差別撤廃の取組は、被差別部落出身の高校生の立ち上がりが出発点ということを理解させる。</li> <li>○差別解消につながる行動の価値を考えさせる。</li> <li>○公正な選考についての学習を通して、自分の生き方を考えさせる。</li> <li>○生徒が被差別部落出身の高校生と自身を重ね合わせ、共感的理解を深める授業展開にするためには、<u>教職員の主体的な学びが重要である。</u></li> </ul>
--

## 3 展開

【第1次】(50分)

学習活動	教師の支援・指導上の留意点
<p>1 授業者の公正な選考に関する経験や思いを聞き、本時のめあてを確認する。</p> <p>○「進路選択の際、どのような選考をされたか」というテーマで考える。</p>	<p>○自分の資質や能力、適性以外で選考されたらどのような気持ちになるか考えさせる。</p>
<p><b>就職差別の中で立ち上がった被差別部落出身の高校生の思いを理解しよう。</b></p>	
<p>2 社用紙の問題点について話し合う。</p> <p>○必要ない質問事項があることや、選考の中で部落差別が行われていたことを知る。</p>	<p>○企業が地図や本籍地等を書かせた理由を考えさせ、就職選考において、部落差別が行われていたことを理解させる。</p>
<p>3 教材を読んで、昭男の思いを考える。</p> <p>①なぜ昭男が履歴書に「部落研」と書いたのか、その思いについて考える。</p> <p>②「部落研」と書いた昭男が、なぜ出自や被差別体験を隠したかったのか、その思いについて考える。</p> <p>③なぜ昭男が就職差別を受けた会社に入ろうと思ったのか考える。</p>	<p>○教材は、事前に内容を読み取っておく。</p> <p>○昭男の生き方や誇りがどこからくるものかを考えさせる。(松本治一郎さんの生き方や、仲間、運動との出会い)</p> <p>○出自を隠すことは自分自身や生き方を否定することになるので、誇りをもって「部落研」と書いたことに気づかせる。</p> <p>○誇りをもって生きていこうとしていた昭男が、社会にある部落差別の現実とその厳しさによって「隠したい」と思わざるを得なかったことを理解させる。</p>
<p>4 本時の学習内容を自分自身と重ねる。</p> <p>○授業者の思いを聴く。</p> <p>○本時の学習を受けて感想を書く。</p>	<p>○生徒に、より自分自身の問題だと感じさせるために、授業者自身の部落問題との出会いや学びを伝え、公正な選考が自分の問題だと気づかせる。</p>

【第2次】（50分）

学習活動	教師の支援・指導上の留意点
<p>1 前時に学んだ内容を振り返る。 ○昭男は、どんな気持ち（思いや訴え）をもっていたのか想起する。</p> <p>2 社用紙と統一応募用紙を比較し、その違いを知る。</p>	<p>○昭男の思いを振り返るために、前時の生徒の言葉（感想）を確認する。</p> <p>○「あおぞら2」の教材資料を活用する。</p>
<p><b>公正な選考をめざしてできた統一応募用紙の価値を理解し、面接試験でどんな行動するのか、行動する自分を見つけよう。</b></p>	
<p>3 統一応募用紙の質問項目において、本籍地をはじめ、さまざまな項目が削除されたのはなぜなのか考える。 ○統一応募用紙では、部落差別に係る質問項目以外の質問も削除され、すべての人が自分の適性・能力・意欲をアピールできるものになっていることを理解する。</p> <p>4 選考において、不適切な質問をされたとき、どう行動（対応）するのか考える。 ○不適切な質問に答えないという行動が、すべての人に公正な選考を保障する行動であることを理解する。</p> <p>5 公正な選考のための取組について知る。</p>	<p>○「教科書無償の運動」や「奨学金の運動」と同様に、すべての人の権利を守る運動であることや、そのことは「水平社宣言」の精神に通ずるものであることを伝える。</p> <p>○多様な意見（「答えない」「答える」「分からない」等）を交流する場面を設定する。</p> <p>○「選考における不適切な質問に答えない運動が、なぜすべての人に公正な選考を保障し、人々の人権を守ることにつながるのか」について再度話し合う</p> <p>○社会問題に対して団結して行動することによって問題の解決を図ることを『運動』といい、これまでさまざまな運動によって社会変革は成し遂げられたことを伝える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公正ではない面接や、書類については「言わない、書かない、提出しない」という取組がすすめられていること。</li> <li>・選考後には、受験報告書を提出すること。</li> <li>・受験報告書や生徒からの報告により不適正選考が発覚した場合、高校側から企業や各種学校、行政へ働きかけ（申し入れを行い）、差別選考や不適正選考に対して継続して取組を行っていること。（過去の事例有り）「新規高等学校卒業者の就職問題（進学問題）申合せ」</li> </ul>	
<p>6 本時の学習内容を自分自身と重ねる。 ○授業者の思いを聴き、不適切な質問に答えないという行動が差別解消につながることを確認する。 ○本時の学習を受けて感想を書く。</p>	<p>○授業者自身の部落問題との出会いやこれまでの学び、差別解消の行動を伝え、公正な選考が自分の問題だと確認する。</p> <p>○このような取組は、部落差別の解消の運動が出発点であることを再度確認する。</p> <p>○不適切な質問に答えることで、社会の中にある差別を結果的に支える（差別を容認する）こととなるため、社会をよりよい方向へと変えていくためには、一人ひとりの行動が大切であることを伝える。</p>

## 小・中・高をつなぐ学習のねらい一覧

### 高等学校

人権を大切にするまちや社会をつくる主体者として、部落差別をはじめあらゆる差別を解消するのは自分たちだと気づき、差別とたたかう生き方を考え、実践的行動力をもって社会変革を試みようとする事ができる。

(3年生) 社会の中で差別とたたかっている人の生き方の価値に気づき、自分の生き方を考え、人権を大切にするまちや社会をつくる主体者として行動することができる。

(2年生) 部落差別が自分の問題だと気づき、部落差別を容認してきた社会のおかしさについて考え、部落差別を解消しようとする事ができる。

(1年生) 社会にあるさまざまな人権問題に気づき、自分の差別性について考え、当事者との出会いを通し、人権問題を自分の問題だととらえることができる。

### 中学校

人権のまちづくりの主体者として、自ら行動して、差別をなくしていく力を身につける。

(3年生) 現代の差別をなくしていく運動の学習を通して、差別を解消しようとする生き方のすばらしさに気づき、自らが差別をなくし人権を大切にする生き方を考え、自らの進路を主体的に切り拓いていこうとする。

(2年生) 部落差別に関する歴史的な事実についての学習を通して、人を分断支配するために差別が用いられたことに気づき、差別的な事象をなくそうとしてきた先人の思いを考え、先人の努力と人権を大切にしようとする。

(1年生) 識字学級や教科書無償運動の学習を通して、仲間と連帯することの大切さに気づき、生きていくことや学ぶことの意義を考え、自分たちで差別を許さない仲間をつくっていこうとする。

### 小学校

部落差別は今もある社会問題であることを理解し、部落差別をはじめあらゆる差別を許さず、なくしていこうとすることができる。

(高学年) 部落差別は今もある社会問題であることを理解し、部落差別はおかしい、許せないという思いをもち、部落差別をなくしていこうとすることができる。

(中学年) 自分の身の周りにおかしさ(差別や偏見)に気づき、誰もが大切にされるためにはどうしたらいいか考え、身の回りのおかしさをなくしようとする事ができる。

(低学年) 自分や友だちのよさに気づき、誰もがかけがえのない存在であるという思いをもち、自分や友だちを大切にしようとする。

小・中・高をつなぐ学習のカリキュラム一覧

高等学校

学年	教材	出典
3年	全国高等学校統一用紙	統一応募用紙・社用紙
	胸はって生きていこう	かがやき
	STEP～未来へ～	あおぞら2
	当事者との出会い	自主教材
2年	解放令	自主教材
	水平社創立	自主教材
1年	性の多様性	自主教材

中学校

学年	教材	出典
3年	統一応募用紙	統一応募用紙・社用紙
	部落差別解消推進法	部落差別の解消の推進に関する法律
	当事者との出会い	自主教材
2年	憲法学習	自主教材
	全国水平社	自主教材
	菜の花	「部落の語り伝え」 福岡部落史研究会
	樫の木の一とりごと	海鳥社 かしの木の一とりごと
	山の粥	山の粥～部落の伝承十話～
1年	ひらがな日記	若一の絵本政策実行委員会
	北風の夜	自主教材
	教科書無償運動	自主教材

小学校

学年	教材	出典	教材	出典
高学年	おれはかきをとっていないぞ	なかま(奈良県人権教育研究会)	お茶くみ当番	かがやき(高学年)
	よかたい先生	学研教育出版	田中松月と全国水平社	あおぞら2
	桶の中の銅貨	水平の旗をかかげて(解放出版社)	松本治一郎と日本国憲法	久留米市人権啓発センター・パネル
中学年	いつもぼくだけ	かがやき(中学年)	つらいことあるねんな	にんげん(明治図書)
	みんなとなかよくしたいのに	かがやき(中学年)	ばあちゃんのリヤカー	福岡県人権研究所
	くろいなみだ	かがやき(中学年)	クレヨンはぬすんだのじゃねえ	にんげん(全国解放教育研究会)
低学年	かお	かがやき(低学年)	かぼちゃとメロン	かがやき(低学年)
	みんながおしえてくれました	五味太郎(絵本館)	あしなが	あきやまただし(講談社)
	われたかびん	ぬくもり	さるとかに	なかま(奈良県人権教育研究会)

◇教材の問い合わせ先

- ・人権・同和教育課・久留米市人権啓発センター
- ・久留米市人権・同和教育研究協議会(市同研)

久留米市教育センター調査研究 人権・同和教育研究班  
(平成29年度・30年度)

田中 和正(東国分小 教諭)  
下川 仁志(草野小 教諭)  
加茂 啓成(金丸小 教諭)  
平山 雄一(屏水中 教諭)  
柳場 健一(良山中 教諭)  
城戸 英明(江南中 教諭)

池口 嘉一(南筑高 教諭)  
前田 珠美(久留米商業高 教諭)  
京田 隆史(三井中央高 教諭)  
田中 淳夫(人権・同和教育課 指導主事)  
富安 幸平(人権・同和教育課 指導主事)  
日隈 直子(人権・同和教育課 指導主事)  
永松 由美(教育センター 指導主事)



